

第23回 東京都中学校生徒会長サミット 報告

- 1 開催日時 令和6年12月26日(木) 13時～16時(受付開始 12時30分)
- 2 参加方法 (1) 狛江市立狛江第一中学校にて対面
(2) 島しょ地区については、Web 会議ツール Zoom を使用しオンラインで参加
- 3 ねらい 「認め合い 支え合い 高め合う 仲間づくり」をテーマとして、実践報告等に学び、各校の生徒会活動の充実を図る。
他校との情報交換などを通して広く交流の機会を持ち、リーダーとしての資質や態度を育てる。
- 4 対 象 東京都公立中学校の生徒会長または生徒会役員
- 5 時 程 (1) 全体会(体育館) 13時～13時50分(50分)
＜全体司会：狛江市立狛江第一中学校生徒会＞
① 開会の言葉 狛江市立狛江第一中学校生徒会
② あいさつ 東京都中学校特別活動研究会会長 荒木 忍
(東村山市立東村山第二中学校 校長)
③ 実践発表
江東区立第三砂町中学校の取組
東村山市立東村山第二中学校の取組
④ 諸連絡 武蔵村山市立第四中学校 主幹教諭 栗原 美絵

(2) 生徒分科会(5分科会) 14時～16時(120分)
① 情報交換及び協議会
② コーディネーターより

(3) 生徒会担当者研修会(体育館) 14時～15時(60分)
① 講演 演題 「中学校教育における特別活動の役割を考える」
講師 狛江市教育支援センター センター長 美谷島 正義 先生

生徒会長サミット全体会報告

東京都の島しょ地区2校、夜間学級1校を含む71校の中学校、計160名の生徒会役員が参加し、開催された。全体会では、本研究会の荒木忍会長の挨拶に続き、代表校である江東区立第三砂町中学校と東村山市立東村山第二中学校の生徒会役員が、自校の特色ある活動事例について発表した。その後、参加した生徒会役員が5分科会に分かれ、各校の活動内容や課題の共有、改善策の協議を行った。



実践発表① 江東区立第三砂町中学校

いじめ撲滅運動

1 ポジティブ言葉フェア

いじめをなくすことを目的として、自分がポジティブになれる言葉を募集し、共有することで生徒が互いに応援し合う雰囲気づくりをする取組。昨年度は中学3年生が勉強に励めるように、受験時期の冬に実施した。



【実施の流れ】

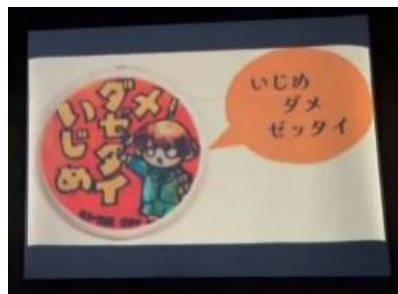
要項を作る → 応募用紙を配布する → 意見箱に投函 → 玄関前の掲示板に掲示

2 ありがとう貯金

日々の感謝を伝え、良い雰囲気を作ることを目的として、恥ずかしがらずに生徒や先生に感謝の言葉を紙に書いて伝える活動。この活動の最終目標は、自分の口から言葉で感謝の気持ちを伝えることである。

3 いじめ防止キーホルダー

日頃からいじめ防止を心がけられるように、通学バッグにつけられ、よく目にしやすいキーホルダーを作成した。



4 いじめ防止出前授業

中学校でのいじめをなくすためには『小学生の頃からいじめはよくないこと』という意識を高めることが大切である。このことから近隣の小学校に行き、生徒会役員が授業を行った。生徒が作成した動画を小学生に見せることでいじめについて考えてもらった。また、個性の違いを知るための色塗りや、いじめ防止スローガン作成を通して、いじめについて深く考えてもらった。

いじめ撲滅運動を始めてから 『重大事態のいじめ報告件数が0件になった！』

『ふれあい月間のいじめアンケートによるいじめ認知件数が大幅に減少！』

実践発表② 東村山市立東村山第二中学校

生徒会主催企画 盛夏祭

盛夏祭とは、夏休み明けの憂鬱な気持ちを吹き飛ばし、学校に行きたくくなるようなイベント。夏休み明けの始業式から一週間を、スタートアップ期間と言い、スタートアップ期間最終日の5, 6時間目を使って盛夏祭を行っている。



【盛夏祭での発表内容】

- ・ 演劇 ・ 漫才
- ・ コント ・ ダンス
- ・ クイズ大会 ・ ギター演奏
- ・ ピアノ演奏 ・ 演劇部
- ・ 合唱部 など

【スタートアップ期間での盛夏祭以外の取組】

- ・ 4時間の午前授業
- ・ テストの禁止
- ・ 忘れ物などの再登校禁止（部活動は短時間で可）

参加団体は、有志で集める。オーディションは行わない。参加団体同士で話し合い、時間短縮や合同発表などの工夫をしている。

生徒会の動き	
5月	先生から説明を受ける
6月	盛夏祭実行委員と参加団体の募集
7月	参加団体決定・練習場所の提供
8月	練習場所の提供・リハーサル
9月	盛夏祭の実施・実施後アンケート



盛夏祭実施後のアンケートでは、「全学年が集まり一緒に笑えるので、関わりという点でも良いイベントである」「観客の拍手が大きく、達成感があった」「それぞれのやりたいことをのびのびとやっていて、観ている方も楽しかった」などがあった。普段は休みがちな生徒も、盛夏祭があるから学校に行こうと思えるイベントである。

盛夏祭は…『2学期を緩やかに始めることができる！』

『全校生徒にとって盛夏祭とは楽しみなイベント！』

生徒会長サミット分科会

今年度は、5つの分科会で協議を行った。分科会では、「認め合い 支え合い 高め合う 仲間づくり」のテーマに基づいて、各校での生徒会活動の実践報告や他校との情報交換等を行い、今後の生徒会活動の充実のためのよい機会となった。司会グループ校の生徒達が、試行錯誤しながら話し合いをまとめる姿も立派であった。

分科会で話題に出された内容【一部紹介】

「意見箱の活用について」

- ・親しみやすいデザインの箱にしたり、生徒に目立つ場所に設置する。
- ・アイデアを出してもらうような、誰もが回答しやすいアンケートを実施してみる。
- ・生徒会新聞などを通して、適切なタイミングで返信をする。
- ・オンライン化して集計が楽になった、人目を気にせず投稿できるのが良い。
- ・「これについてどう思いますか」とテーマをしぼったアンケート調査を行い、意見を出しやすくしてもらう。
- ・学校行事の後に全員にアンケートを行い、意見をしっかり共有する。
- ・放送や玄関前での呼びかけ、ポスターや掲示板、オンライン上のクラスルームでの説明など、広報活動をしっかりと行う（特に「見える化」が大切）。
- ・不適切な投稿に対しては、記名式にして、責任をもって意見表明してもらったり、生徒会朝礼などでもきちんと呼びかける。逆に、匿名で意見を出したい人もいるので、アンケート内容によって記名式や無記名式にしてみる。

【考察】

意見が集まらないという意見に対して、学習者用端末からのフォームで提出を行ってもらうなど、オンライン化を試みる学校が以前よりも増えてきている。また、従来の形で意見箱を設置し、紙に書いて出してもらうことも大切であるという考えも出された。また、アンケートの結果や、質問に対する回答など、全校生徒からの声に対して、生徒会本部役員が丁寧な回答や情報共有を行うことで、少しずつ意見箱の活用に関する取組内容が良くなっているという意見が出された。

「あいさつ運動」

- ・以前はハイタッチ運動を行っていたが、手を振る形でのあいさつ運動に変更
- ・あいさつの向上に関するプラカードで呼びかけ
- ・あいさつカウンターで数値見える化

「校則の見直しに関して実現できた事例」

- ・防寒着（コート）の多様化
- ・靴下等の色規制を廃止
- ・カーディガンの着用可
- ・夏場の帽子着用や日傘の使用 等

参加生徒の声（振り返りアンケートから一部紹介）

「生徒会長、または本部役員として活動する上で大切にしていること」

- ・生徒に寄り添うことのできる生徒会
 - 生徒会活動を「見える化」し、全校の生徒に生徒会活動について知ってもらい、興味をもってもらうこと。
 - 自分が行いたいことをただ行うのではなく、生徒の皆さんがより充実した学校生活を送れるよう、考えて活動すること。
 - 生徒会本部役員は、全校生徒の「代表」であるからこそ、生徒の皆さんが学校生活に対してどのように感じているのか知ること。
- ・一生に一度しかない中学校生活を楽しむために、学校をより良くしていくために、全力をつくすこと。
- ・役員内でも一人一人の意見を尊重する。
- ・居心地の良い学校にするため、色々な人の意見に耳を傾けるようにしています。また、生徒会の活動や、企画を全校生徒に知ってもらうため他の委員会（放送、広報など）と連携するようにしています。
- ・常に自分から挨拶をすること。
- ・実施した後のフィードバックをきちんとする。
- ・どんな要望でも最初から無理だと思わずやってみること。
- ・お互いを大切にすることと、「より具体的にしていこう」ことをモットーにしてたくさん質問していくこと。
- ・自分自身も生徒目線に立ち、よりより学校を目指すには何が必要か考えることです。自分だけの一つの意見だけでなく周りの意見もよく聞き、意見を広げていくこと。
- ・生徒全員が気兼ねなく、心地の良い学校生活を送れるようにするため、生徒の声がよく通る安心、安全な学校作りを大切にしています。
- ・自分だけの価値観で判断せず、様々な生徒、考え方の立場になって話し合いに参加するようにしている。また、生徒会役員全員がこれまでの経験の有無や学年の違いにとらわれずに発言しやすいような話し合いの場をつくれるように意識している。
- ・ひとりひとりの笑顔を大切にすること。感謝の気持ちを忘れないこと。
- ・今の学校をもっとより良くするために中心となって動く→中心となって動くことはもちろんだけど、ただボランティア紹介やこういう活動をしていると紹介するのではなく、ボランティアでいったら実際に参加してみたりして、全校の皆がボランティア活動に参加しやすくする。
- ・話し合ったことを生徒会役員たちだけで終わるのではなく、生徒会会員のみんなに知ってもらって一人ひとりが活躍できるようにすること。
- ・まわりにとって信頼される存在としていられるように、日頃の過ごし方や、意見を積極的に出したり自分が何をしたいのかなどを具体的に話す。
- ・色々な生徒の視点に立って考えること→多くの生徒に生徒会活動に関心を持ち、参加してもらいたいので、「面倒くさがりな人はこれだと参加してくれないかも」「1年生にこの表現はまだ分かりづらいかも」と様々な可能性を考えている。
- ・生徒会の仕事は学校全体に関わることなので、自己判断で突き進むのではなく、生徒会内で積極的に

コミュニケーションをとって決めたり、全校生徒の意見を取り入れて反映したりするようにしている。

- ・常により良い学校生活が送れているか、生徒の意見を聞くだけではなく自分からも考えるようにしています。そのため、私たち生徒が今後どのようなことをすることでよりよい学校生活が送れるか考えることを大切にしています。

「今回の生徒会長サミットで良かった点」

- ・様々な中学校の生徒会との意見交流を通じ、悩みや課題が解決するとともに、知らなかった取り組みについて学べ、自らの考えを広げられた。
- ・取り組むか迷っていた活動の成功例を聞けて、前向きに検討しようと思えた。
- ・自分の学校の悩みの対策の案を考えてもらったこと。他の学校がどんな取り組みをしているか知れた。
- ・同じ学校の生徒会メンバーや自分だけでは思いつかないようなことがたくさんあり、自分たちの企画立案の参考になった。
- ・多くの意見交換ができ、自分の学校で取り入れてみたい！自分の学校だったら...と考えることができた点
- ・発表校だったこともあり、全力で取り組めたし楽しかったです！！
- ・自分たちの学校で取り組んでいることと同じことをしている学校や、それを応用させた取り組みをしていたり、考えていなかったような取り組みをしていたりして、面白かった。
- ・自分達だけでは思い付かないような取り組みが沢山あり、これから活動していく上でとても参考になりました
- ・書記の方がホワイトボードに意見を書いて黒板に貼ってくれていてとても助かりました。
- ・遠く離れた学校の生徒会長と出会えるので、地域の生徒意見交流会では得られない様々な情報をいろんな中学校が実施していることをたくさん聞けて、自分たちの中学に活かそうと思えたところ。
- ・参加者全員に発言のタイミングや考える時間があつたので、参加者がお互いにより深い話し合いをすることができたと思う。
- ・自分の学校の活動を他の学校の方々にも知ってもらうことができたこと。
- ・自分の学校で苦戦していることを他校の成功談を聞かせてもらったこと。
- ・生徒会長サミットを通して違う市や区の学校の生徒会本部がやっている取組を聞くことができて、学校同士の交流にも繋がるし、その取組をもとに他の中学校がもっと良い中学校になっていくことができる。
- ・全体会が終わってチームになって話し合うとき、司会の人の進行がとても上手で、途中で止まったり、意見が出なくなることがなくて、とても話し合いがしやすかった！
- ・自分たちの学校の課題に対してやっていることなどのアドバイスをもらったり、共有してもらえ場所はなかなかないので、自分たちにはない考えを聞けて良かったです。分科会で話し合う学校を離れた学校にしていたのが良かったです。
- ・他の人たちと仲良く意見交換できたのが良かった
- ・一つ一つの学校が自分たちのこれからの生徒会活動をより良くしていきたいという意思を持って参

加されている事が分かった。

- ・それぞれの学校同士で高め合うことでお互いが成長できるという環境作りができていた。
- ・他の生徒会話を聞いてやりたいことなどのレポーターが増えた
- ・分科会では他校の生徒会の方々の司会進行のおかげで、細かいことでも遠慮せずに聞き、話し合い、良い意見交換ができたところ。
- ・全体会で発表していた学校の発表が今回、すごく充実した内容で聞いていて面白かったし、こんな取組をしているんだな、と勉強になったので全体会で発表する学校の発表が楽しみです。

「これからの生徒会長サミットに期待すること」

- ・多様な意見
→一つのテーマだけに対し話し合うのではなく、お悩み相談的な形式で行う話し合い
- ・今回のように、真剣に話し合ったり、間々で笑いをつくったりして、場がよい生徒会長サミットになることを期待しています
- ・もう少し小グループでの活動を増やして自分が聞きたいことをもっと深く聞ける時間を作ってほしいです。
- ・様々な学校との交流。分科会の学校だけでなく、ほかグループにいた学校との交流もできたらいいと思った。
- ・今回もすごくよかったけど今回よりももっといい案を出せるといい！
- ・もっとたくさんの学校が参加して、たくさんの意見を持って帰れることができればいいなと思います！
- ・せっかく都の生徒会長や本部役員が集まれる機会なので、遠慮せずに、積極的に質問したり意見を言ったりして他の学校の良いところを持ち帰ってほしい。
- ・全ての学校が関わりを持ち、一つの学校だけでは成し遂げられないことを成し遂げられるようなサミットにしてほしい。

【サミットの様子】

